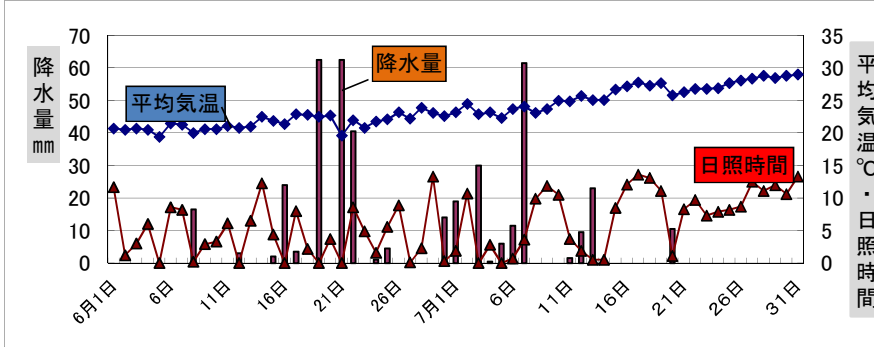


稲作気象台情報第2号

平成24年8月3日
東播磨農業改良普及事業協議会

1 気象概況



降水量 (mm)	7月上旬	7月中旬	7月下旬	8月上旬
今年	128.5	44.5	0.0	—
平年	57.7	41.6	39.9	17.4
平均気温 (°C)	7月上旬	7月中旬	7月下旬	8月上旬
今年	23.6	26.3	27.8	—
平年	24.4	25.4	27.1	27.8
日照時間 (h)	7月上旬	7月中旬	7月下旬	8月上旬
今年	52.0	66.1	109.6	—
平年	56.6	52.3	82.3	79.7

〇7月の気象

梅雨明けは7月17日頃(平年より4日早い)、上旬の気温は平年に比べてやや低く、日照時間も短くなりました。しかし、中下旬になると晴天日が続く、気温はやや高く、日照時間も多くなり、特に下旬には雨が降らない日が続いています。

2 病害虫の発生状況

(平成24年8月1日調査)

調査項目		10株当たり発生頭数					斑点米カメムシ類(本田10回振り)	被害株率(%)			発生株率(%)			斑点米カメムシ類(畦畔40回振り)
		ツマグロヨコバイ	ヒメトビウンカ	セジロウソカ	トビイロウンカ	カメムシ類		ニカメイガ	コブノメイガ	イネツトムシ	いもち病	紋枯病	縞葉枯病	
調査地点	品種													
明石市大久保町江井ヶ島	ヒノヒカリ	0	0	23	0	4	0	0	0	4	0	0	0	—
明石市大久保町松陰	ヒノヒカリ	0	0	34	0	0	0	0	0	12	0	0	0	—
明石市藤江	ヒノヒカリ	0	0	8	0	0	0	0	2	0	0	0	0	—
明石市西鳥羽	キヌヒカリ	0	0	68	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
明石市魚住町金ヶ崎	あきたこまち	1	0	63	0	0	1	0	2	0	0	0	0	—
明石市二見町東二見	ヒノヒカリ	22	0	71	0	0	0	0	4	0	0	0	8	—
播磨町古田	ヒノヒカリ	8	0	27	0	0	0	0	2	0	0	12	0	—
加古川市平岡町新在家	ヒノヒカリ	0	21	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
ほ場平均		3.9	2.6	38.5	0.0	0.5	0.1	0.0	1.3	2.0	0.0	1.5	1.0	—

病害虫の発生概要

害虫	ウンカ類の発生は昨年同期に比べて少なく、特に目立った害虫の発生は認められませんでした。但し、ほ場によっては、コブノメイガやイネツトムシの発生が見られます。また、キヌヒカリなど早生系品種では出穂が始まっていますが、斑点米の原因となるカメムシの発生が本田やほ場周辺で確認されました。
病害	葉いもち病の発生が昨年よりも多く見られますが病状の進展は見られません。また、一部ほ場では紋枯病の発生が見られました。

3 定点ほ場生育概況

品種	地区	田植日	調査時期	草丈(cm)	莖数(本/株)
ヒノヒカリ	明石市・大久保町	6月16日	8月1日	65.1(77) [※]	21.4(75) [※]
ヒノヒカリ	播磨町・古田	6月7日	8月1日	86.4(105)	25.2(115)
キヌヒカリ	稲美町・印南	5月19日	8月1日	88(—)	22(—)
ヒノヒカリ	加古川市・志方町	6月16日	8月1日	83.1(97)	17.7(71)

※()内は昨年同期比(%)

4 これからの栽培管理のポイント

その1 水管理

- コシヒカリ、キヌヒカリでは出穂期に入っています。水を切らずと白未熟粒や粒張り不良の原因になりますので、間断灌水を実施するようにしましょう。
- ヒノヒカリでは幼穂形成期に入っていますので間断灌水を実施するようにしましょう。

その2 病虫害防除

今回の調査では、葉いもち病の発生ほ場が一部地域で例年よりも多く見られました。しかし、高温乾燥条件の天候が続いているため、病状の進展はなく、停止すると思われます。今後の発生をよく観察し、必要に応じ防除を行って下さい。また、一部ほ場で紋枯病の発生が見られました。上位葉鞘へ進展する場合は防除が必要です。ほ場によっては、ウンカ類、コブノメイガ、イネツトムシ等の発生が見受けられます。今後もほ場観察を行い、発生が増加する場合には防除を行いましょ。

その3 斑点米カメムシ類対策

重要ポイント

① 畦畔、休耕田の草刈り

雑草の繁茂しているところに斑点米の原因となるカメムシ類が集まり、繁殖しています。

対策として出穂の2週間～10日前までに畦畔の草刈りを行うと効果的です。

また、同時に周辺の休耕田の草刈りを行いカメムシの居場所をなくしましょう。

なお、すでに出穂し始めたほ場では畦畔等の草刈りはカメムシ類を呼び込むことになり、逆効果となりますので注意して下さい。

② 薬剤防除

カメムシは雑草の繁茂した畦畔や休耕田に多く生息しています。水稻が出穂・開花するとカメムシがほ場に移動してきます。**出穂後下記の表を基本にカメムシ防除を必ず行いましょう☆**

トレボン粉剤DL	出穂後4～5日で散布して下さい	10a 当り	4kg
スタークル粒剤	出穂後7日で散布して下さい		3kg
スタークル豆粒剤	出穂後7日で散布して下さい		250g

出穂時期は、キヌヒカリは今週末から来週中頃、ヒノヒカリは8月末から9月初めの予定です。

その4 乳白粒など白未熟対策

乳白、背白、基白などの白未熟粒は、水稻出穂後以降20日間の平均気温の平均が27℃以上になると多発しやすくなります。

基肥に緩効性肥料を入れる省力体系でも、高温が続く場合、肥切れをおこすことがありますので、葉色、生育に応じて穂肥(窒素成分で1kg程度)を施用しましょう。

但し、穂肥の施用時期が遅れたり、穂肥の施用量が多かった場合は食味が低下するので注意しましょう。